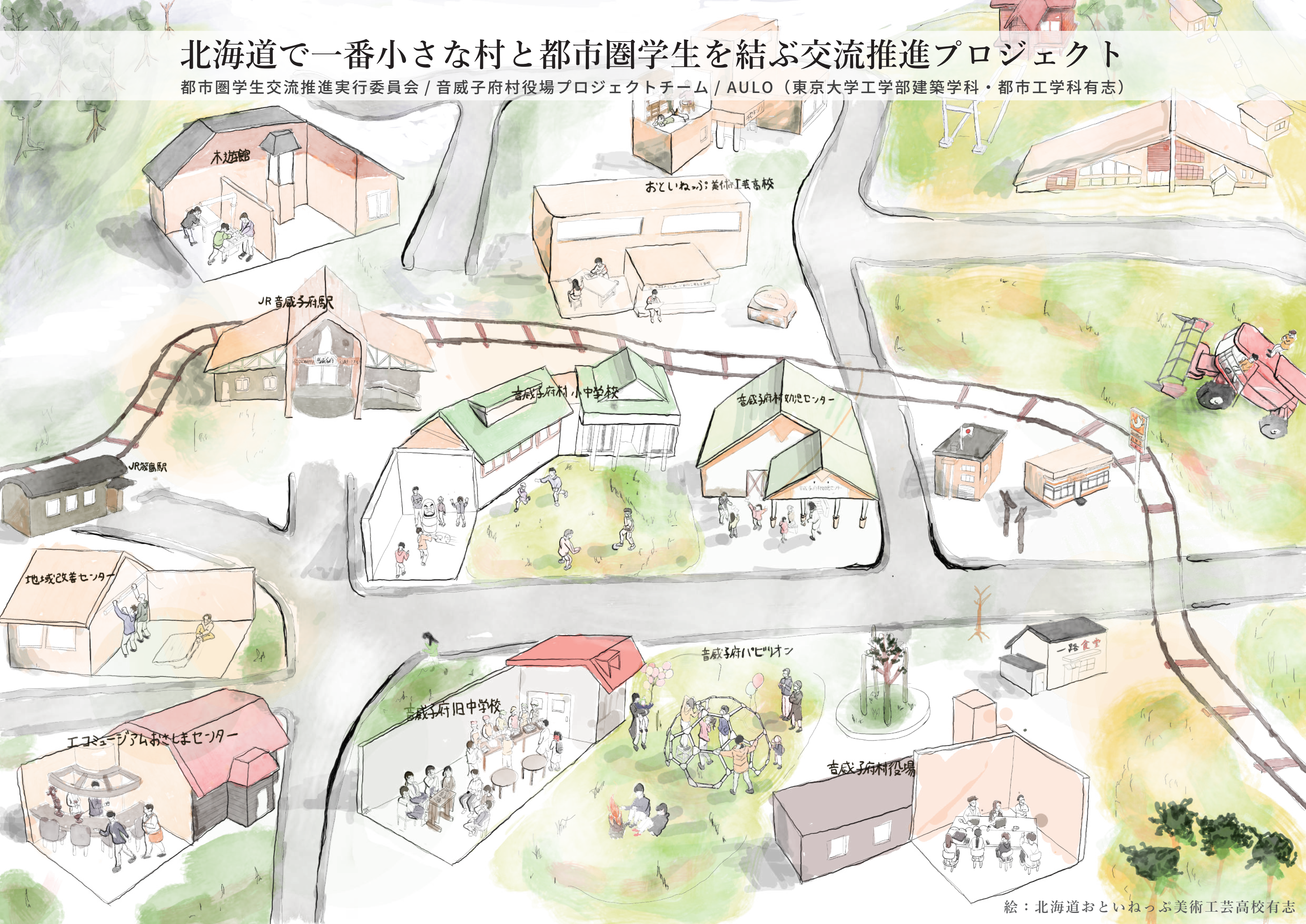


北海道で一番小さな村と都市圏学生を結ぶ交流推進プロジェクト

都市圏学生交流推進実行委員会 / 音威子府村役場プロジェクトチーム / AULO (東京大学工学部建築学科・都市工学科有志)



絵：北海道おといねっふ美術工芸高校有志

1 北海道で一番小さな村 音威子府



▲天塩川と森林に囲まれた音威子府村市街地



▲全寮制のおといねっぶ美術工芸高校 ▲音威子府特産のそば畑

■村づくりを担う人材の固定化

寒冷地のため余暇時間を**屋内で過ごす**ことの多い北海道特有の地域性や、人口が 1000 人にも満たない小さな村であることから、**閉鎖的なコミュニティ**が形成され、村づくりに関わるような活動の**参加者も長年固定化**されていた。

■身動きのとりにくい行政

村役場やその他の公的機関は地域に対する影響力を持つ一方で、公共性を強く求められる立場上、**新たな取り組みに対する抵抗感**が拭えていなかった。



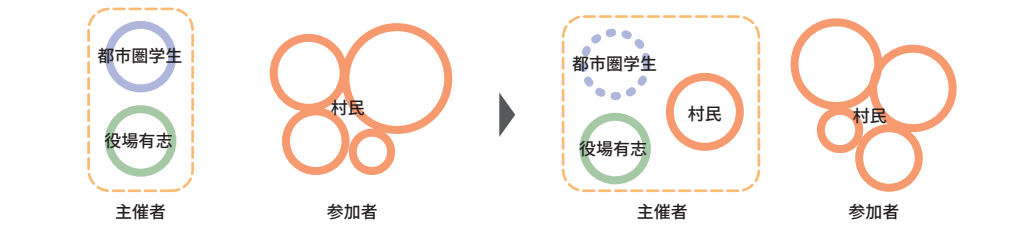
▲旭川と稚内の間に位置し、交通の要衝として発展した歴史を持つ

■新型コロナウイルス感染症の拡大

第40回富樫高士大回転競技大会の中止について
本年3月上旬に開催を予定しておりました「第40回富樫高士大回転競技大会」ですが、新型コロナウイルスの感染が拡大している状況を鑑み、誠に勝手ながら開催を中止させていただくこととなりました。
何卒、ご理解のほどと多くご理解・申し上げますとともに、来年度の開催にご期待いただければ幸いです。
令和4年3月31日

YOKO-CUP 第34回音威子府ジュニアクロスカントリースキー大会の中止について
本年3月下旬に開催を予定しておりました「第34回音威子府ジュニアクロスカントリースキー大会」ですが、新型コロナウイルスの感染が拡大している状況を鑑み、誠に勝手ながら開催を中止させていただくこととなりました。
何卒、ご理解のほどと多くご理解・申し上げますとともに、来年度の開催にご期待いただければ幸いです。
令和4年3月31日

2 都市圏学生との交流をきっかけとした村民の当事者意識の醸成



専門的な知識や経験を持つ都市圏学生と役場が共同でプロジェクトチームを立ち上げ、特に**学生らと村民との相互交流**をきっかけとして、**村民や関係する人々による将来の村づくりへと繋がる機運**、**きっかけづくり**を行っていく。

音威子府における「ソト」の再定義

既存のコミュニティを維持しつつも、新たな関係性を創出し、村全体の活性化に資する公共性の高い場所

音威子府パビリオン2021



音威子府村は**人口約 700 人のうち 120 人ほどが高校生**という特殊な地域である一方、ほかの村民らと高校に隔たりがあった。建築などを専攻する学生らがつなぎ役となり、**美術工芸を学ぶ高校生を中心とした村民らでパビリオン制作**を行う。
予め空間を用意するのではなく、**参加者が場づくりをするプロセスを共有**することにより、今まで交わることのなかった村民同士に新たな関係性が生まれた。

農業まちづくり事業



音威子府の主産業である農業に着目し、**農業サークルに所属する東大の学生らが村でリモート授業を受けながら村で生活し、空いた時間で農作業を手伝う**。まったく別のバックグラウンドを持つ両者の間に**インタラクション**が生まれる。

箴島生活改善センターの改修



長い間使われていなかった村の集会所を**学生の滞在場所としてリノベーション**を段階的に行い、実際に滞在しながら今後の活用方法を柔軟に検討する。

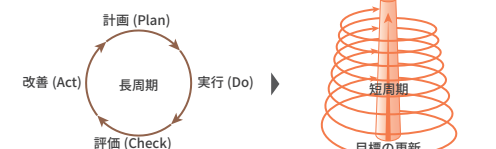
3 本年度のプロジェクト運営

■学生と役場の二人三脚でスタート



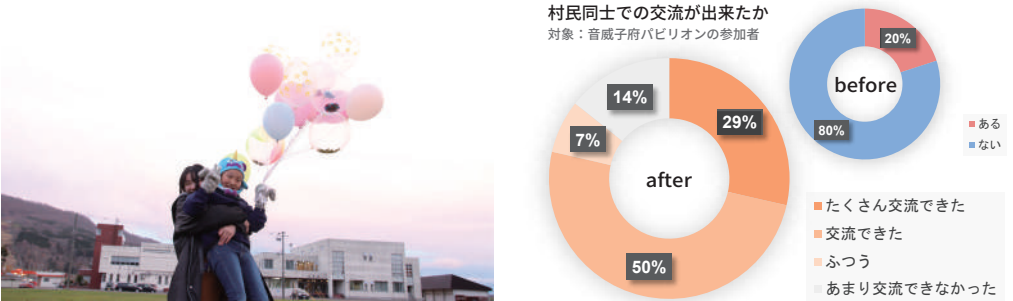
村の地域振興政策の一つとして建築・都市を専門とする都市圏学生との交流事業を立ち上げた。**東京大学の学生チームと役場有志チームの二人三脚で、遠隔地かつコロナ禍であったことを逆手にリモートによるミーティング**を積極的に行った。本プロジェクトは**最初期から学生と行政が対等な関係**で進めている点に新規性がある。

■タクティカル・アーバニズムの導入



学生サイドの提案で、**タクティカル・アーバニズムに基づいたアプローチ**により、プロジェクト全体を進めている。役場チームのフットワークを向上しただけでなく、これまで行われてきた村での小さなアクションを説明するための大きな軸となった。

4 同時多発的に起こる新たな動き



実験的に行われた小さなアクションは、村内の様々な場所と直接的にも間接的にも**新たな関係性を生み**、各地で新たなアクションの機運を高めている。
今年度行われた企画だけでも村人口の 1/7 を超える多くの世代の人々が関わりを持ち、**村の活性化に貢献する実体験とそのプロセスを経験**した。



学生が永続的に関わりを持つのではなく、**村民たちとアクションを通して価値観を共有し、醸成していく**。
村民ひとりひとりが村づくりを担えるプレイヤーとして育っていくためのプロジェクトの起爆剤として学生が関わり、**自立した地域として持続性の高い村づくり**が行われる。